
一般財団法人 神奈川県警友会 けいゆう病院

院内コミュニケーションツール「CareRings Contact」導入事例

病院機能：一般急性期病院

病床数：410 床

看護部長：向後加代子

病院概要：

幅広い診療科を備え、救急医療から専門性の高い医療まで対応しています。

地域医療の中核を担う医療機関として、安全で質の高い医療の提供を重視し、患者に寄り添った医療体制を整えています。

訪問日：2025.11.17



「CareRings Contact（ケアリングスコンタクト）」導入の背景

けいゆう病院の向後看護部長と鈴木看護師長にお聞きしました。

医療現場では、迅速な患者対応と安全性の確保のために、スタッフ間の確実な情報共有が不可欠です。

従来は PHS や固定電話、伝言メモなどを用いた連絡が主流で、以下のような課題がありました：

- 移動や待機による時間ロス
- 情報伝達ミスの発生
- 誰に連絡すべきかが分かりづらい



こうした背景を受けて、看護部を中心に検討が進められ、院内コミュニケーションの効率化と業務 DX の推進を目的に、医療・介護施設向けコミュニケーションツール

「CareRings Contact（ケアリングスコンタクト）」が導入されました。

本システムはアイホン株式会社が提供しており、スタッフの顔写真や所属を一覧で確認しながら、通話やメッセージで連絡が可能な点が特長です。今後は ICT 活用や他システムとの連携も視野に、段階的な導入が進められています。

使用状況と運用方法

- 使用者：看護師、介護士、ナースエイド、クラーク、薬剤師など
- 端末管理：病棟ごとに 16 台を定数管理、管理職は個人持ち

- 運用形態：PHS とスマートフォンの 2 台持ち（現時点）

主な機能と特徴

- 顔写真付きアドレス帳で、誰に連絡すべきかが一目で分かる
- LINE 通話のような感覚で通話・メッセージが可能
- 電子カルテの閲覧・入力・音声入力・写真添付・バーコード認証など、一部業務にも対応
- ログイン制運用：勤務時に端末へログインして使用

使用状況の分析

- 導入から 3 年が経過し、使用頻度は着実に上昇中
- 定期的に通話・利用状況データを分析
- 部署ごとの利用実態を可視化・評価

導入のメリット

- **病棟の静穏化と業務効率の向上**
呼びかけや探し回ることが激減し、廊下での大声や無駄な移動が減少。患者にとっても落ち着いた療養環境が保たれやすくなりました。
- **在籍状況の可視化による業務中断の減少**
顔写真と所属が一覧表示されることで、誰が勤務中か一目で分かり、通話とメッセージを使い分けることで相手の業務を妨げにくくなりました。
- **多職種間の連携が円滑に**
看護師だけでなく、看護補助者・クラーク・リソースナースなども同じツールを使用し、伝言や固定電話を介さない直接連絡が可能に。
- **患者のそばで業務を完結**
電子カルテの閲覧・記録・音声入力・写真添付などがその場で行え、スタッフステーションへの往復が減少。患者対応の流れを途切れさせずに業務が進められます。
- **医療安全の向上**
情報伝達の簡略化により、伝達ミスリスクが軽減。多職種間での情報共有がスムーズになりました。
- **将来的な業務体制改革との親和性**
セル方式や業務の柔軟な再編にも対応しやすい基盤が整いつつあります。



現時点での課題・デメリット

- **PHS との併用による運用負担**
PHS とスマートフォンの 2 台持ち運用になっている
- **スマートデバイス特有の課題**
 - 記録が簡略化しやすい
 - 写真撮影・送信における倫理的配慮の必要性
 - 表現力・アセスメント力の低下への懸念
- **機能の周知不足**
多機能であるがゆえに、すべての機能が十分に活用されていない現状も。教育や周知の工夫が求められています。
- **医師への展開が限定的**
完全な多職種連携には至っていません。

今後の課題と展望

- PHS 廃止を見据えたスマートフォン一本化の実現
- ナースコール・見守りカメラ・3 点認証とのさらなる統合
- 記録・写真・音声入力に関する倫理ルールの整備と教育
- 定期的な勉強会やデータ分析による機能浸透
- 医師を含む多職種への展開による院内全体の DX 推進
- DX と並行した看護師のアセスメント力・思考力の強化

おわりに

CareRings Contact は、単なる連絡手段のデジタル化にとどまらず、業務効率の向上、医療安全の強化、療養環境の改善といった多方面に良い影響を与えており、ぜひ自施設でも導入してもらいたいと思いました。
